

## A man wearing a white long-sleeved shirt, a light-colored vest, and a white cap is standing in a field of yellow flowers. He is looking down at a plant in his hands. The field is filled with rows of yellow flowers, and there are hills in the background.

(杉浦幹治)

収穫量の落ち込みの規模は、最大の産地である北海道に台風が上陸し、全国の収穫も詰まっていない」

量が前年比24%減の2万400トだった04年や、大冷害だった1993年と同程度との見方が出ている。

「枝も葉っぱも出ない。」

信州そばの産地の一つ、長野市・戸隠地区でそばを栽培する山口庄一さん(72)は嘆く。10月下旬に10坪を刈り取った。平年なら80<sup>キ</sup>ほど取れ



るが、今年は4<sup>キ</sup>ロ。「種代にもならない。残りはもう刈らない」とため息をついた。

それは乾燥には強いが、水に弱い。長野市では毎年8月初めまでに種まきを終える。しかし、今年は長雨に見舞われた。7月の日照時間は平年の58%の99時間で、逆に降水量は164・5<sup>ミ</sup>で平年より20%多かった。水がなかなか引かず、種まきは8月中旬以降と大幅に遅れた。その後も十分な日照がなかった。

長野県農業技術課によると、県内の収穫量は08年は2130トで全国2位。この10年ほどは年間2千トほどで推移してきた。同課は「収穫量はいつもの年の半分ほどにまで落ちる可能性がある」。

08年の収穫量が1万1400トと全国の約半分を占めた北海道も深刻だ。大産地の幌

上枝や葉が出ない「針金そば」を手に取る山口庄一さんが、緑のままが多い  
 下 本来は黒くなるそばの実だが、緑のままが多い  
 しいずれも長野市・戸隠地区のそば畑、杉浦写す

加内町があるJAきたそらち幌加内支所。いつもは10<sup>㌥</sup>で100<sup>㌥</sup>ほど取れるが、今年は42<sup>㌥</sup>。台風被害で過去最も悪かった04年でも45<sup>㌥</sup>はあったという。ホクレンによると、全道的な収穫量も平年の3分の2程度とみる。

全国蕎麦製粉協同組合によると、山形県や福島県なども平年の50～60%の出来。茨城や栃木、福井の各県では、台風18号の強風で茎が倒れたり、実や花が飛んだりした。

同組合は、「良質な輸入原料に頼らざるを得ない状況にある」とみている。そばの実は中国や米国、カナダなどからの輸入が多く、全体の流通量は確保できるとしても、国産そばの人氣は高い。同組合によると、国産そばの実の流通価格は高騰し、例年は1袋45<sup>キロ</sup>円で約1万2千円だが、今年は2万円にまで上がっている。

戸隠で手打ちそば店を営む宮本光則さん(58)は「春蚕以降、国産そばの争奪戦になる。ただ、仕入れ値を価格に転嫁できる状況でもない」と苦い顔だ。